

年 組 名前:

駿台甲府全国3位 春日居出身3選手



3位の原動力となった金子真虎(左から2人目)、市川俊喜(左)、窪田晴天(右)の3選手
|| 愛媛・松山市コミュニティセンターメイナリーナ

3人は小学生の頃、山梨市スポーツ少年団に所属。中学進学時は地元の春日居中にハンドボール部がないため、部がある学校への越境入学を模索したが、実現しなかった。「ハンドボールを続けたい」。スポ少監督の平塚秀さん(49)に頼み込み、練習を続ける場として山梨市ハンドボールクラブを立ち上げてもらった。クラブチームのためほとんど公式戦に出場することはできず、週2、3日の練習で技術を磨いた。少ない練習

愛媛県で行われた全国高校総合体育大会(インターハイ)ハンドボール男子で駿台甲府が3位となった。原動力となったのは、春日居中出身の金子真虎(18)と窪田晴天(17)、市川俊喜(16)の3選手。小学校で親しんだハンドボールの部活動が中学になく、小学校時代の恩師と一緒にクラブチームを立ち上げて練習を積み重ねてきた。金子選手は「中学の3年間があったから今日の結果がある」と恩師への感謝の言葉を口にした。市川和貴 || 本文記事14面

中学ハンド部なく 自らチーム鍛錬

日数をカバーしようと、金子、窪田の両選手は投げる力を高めることを目指して野球部に所属。ゴールキーパーの市川選手はサッカー部に所属してボールへの反応力を鍛えた。

今回のインターハイ、金子選手は主将としてチームをけん引。窪田選手はエースポジションで得点を重ね、市川選手は好セーブを連発して何度もチームの窮地を救った。インターネット中継で3人のプレーを見守った平塚さんは「活躍する姿が見られて本当にうれしい」と、教えるたちの成長に目を細めた。

地道な努力を積み重ねてつかんだ銅メダル。3人は3日の試合後、一中学の3年間、自分たちとハンドボールをつなぎ続けてくれた平塚さん「さすが感謝している」と、晴れやかな表情で語った。

(2022年8月4日付 山梨日日新聞 26面)

問1

全国高校総体で3位となった駿台甲府高のハンドボール部には、春日居中出身の3選手がいます。ハンドボール部のない中学時代に、スポ少の平塚監督は、3人と一緒に、何を立ち上げ、練習を積み重ねましたか。

.....

問2

3選手は、ハンドボール部のない中学校では、何部に所属していましたか。

金子選手:..... 窪田選手:..... 市川選手:.....

問3

3選手は、中学時代も諦めずにハンドボールを続けてきました。あなたも、諦めずに続けていきたいことがありますか。また、その理由も書いてください。

.....

.....